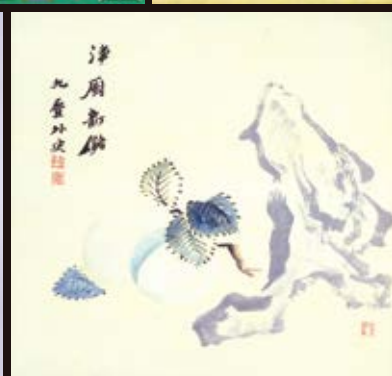


Resonating colors

響きあう色彩

2017 コレクション展 I

2017年 4月7日|金|－6月6日|火| 大分県立美術館 3階 コレクション展示室



豊かな色彩が奏でるハーモニー

明るい光、爽やかな空気の中、新緑が芽吹き、花々が咲きほこり、人も自然も心躍る春。つぼみが開くように、ひとびとの眼も外の世界へと向けられ、自然や街、生活のなかの光景とともに想像力もひろがってゆきます。2017年度の幕開けを飾るコレクション展Ⅰでは、当館が誇る大分県の美の宝のなかから、色と主題、色と素材、色と技など、さまざまな角度から「響きあう色彩」をテーマに選りすぐった日本画、南画、工芸、洋画、版画をご紹介します。

【前期】4/7(金)－5/9(火) 【後期】5/11(木)－6/6(火)

◎5月10日(水)は展示替えのため休展 ◎作品は一部展示替えを行います

【開館時間】10:00－19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

【観覧料】一般300(250)円 大学生・高校生200(150)円

※()内は20名以上の団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※大分県芸術文化友の会びびKOTOBUKI・TAKASAGO無料、UME団体料金 ※障がい者手帳等をご提示の方とその付添人(1名)は無料

中学生以下は無料

大分県立美術館

1. 宇治山哲平《華嚴 No.5》1978年

2. 福田平八郎《花菖蒲》1944年(寄託品)

3. 川西英《アネモネ》1935年

4. 河合誓徳《円象》1971年

5. 田能村竹田《浄厨新體図》1807年頃(前期展示)

6. 荒井龍男《Harmony in July》1954年

〒870-0036 大分市寿町2番1号 TEL:097-533-4500 FAX:097-533-4567

<http://www.opam.jp> JR大分駅府内中央口(北口)から徒歩15分/大分ICから車で10分

2017年度のコレクション展が始まります！

近世以降現代にいたるまで、大分県からは数多くの優れた美術家が出ています。中でも南画の田能村竹田、日本画の福田平八郎、高山辰雄、洋画の宇治山哲平、彫刻の朝倉文夫、竹工芸の生野祥雲齋らは、わが国の美術に大きな足跡を残すとともに、いまなお幅広い人気を博す代表的な作家です。

2017年度はコレクション展を6期に分け、「響きあう色彩」「水に憩う」「躍動するカタチ」「自然への憧憬」「コレクションの醍醐味」「和の心」と、それぞれテーマや趣向を変えて、大分県立美術館所蔵の約 5,000点におよぶコレクションのなかから名作・傑作をご紹介します。



高山辰雄《午後》1955年



福田平八郎《竹》1940年

響きあう色彩 Resonating colors 2017 コレクション展 I みどころピックアップ

高山辰雄の版画《源氏物語》シリーズ

穏やかな色合いが美しい高山辰雄の《源氏物語》版画シリーズは、円地文子訳本の『源氏物語』の装丁用として制作されました。源氏物語のストーリーから選ばれた9つのシーンに基づく版画は、連作でみることで、優しい色のハーモニーがより一層際立ちます。日本を代表する古典文学の幻想的な場面が、色鮮やかに展開しています。



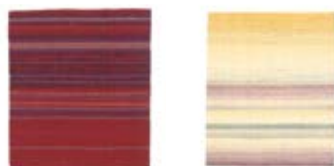
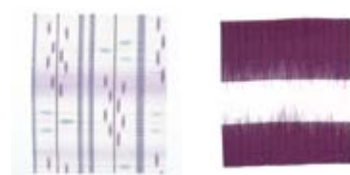
上：高山辰雄《源氏物語 紅葉賀》1982年

中：高山辰雄《源氏物語 夕顔》1982年

下：高山辰雄《源氏物語 浮舟》1982年

志村ふくみ《裂の筥(裂50趣)》

植物染料で染めた絨織の人間国宝として著名な志村ふくみの裂は、小さいものながら、複数みることにより豊かに作家の世界を物語ります。裂のなかで奏であう色と色の響きには、それぞれの染料や糸ならではの色を引き出してきた作家の軌跡が表れています。



志村ふくみ
《裂の筥(裂50趣)》1984年(部分)

ギャラリー・トーク開催

4月 9日(日) / 4月23日(日)
5月14日(日) / 5月28日(日)

時間 | 13:30-14:30
会場 | 3階 コレクション展示室
※予約不要・要観覧券

OPAM 大分県立美術館
Oita Prefectural Art Museum

〒870-0036 大分市寿町2番1号

TEL:097-533-4500 FAX:097-533-4567 <http://www.opam.jp>

JR大分駅 府内中央口(北口)から徒歩15分/大分ICから車で10分

